

自立

～社会で求められる人材輩出のために～

D-2

グループ名：紫八

I. はじめに

このレポートは平成23年7月6日から8日に行われた、平成23年度大学職員情報化研究講習会基礎講習コースにおけるD班第2グループの討議内容をまとめている。

II. 課題認識

テーマ設定

まず、各自が抱えている職場での問題点、疑問、不都合な点について意見を出し合い、討議を行った。その中でキーワードとして、「情報共有」、「教職協働」が挙げられ、教員・職員・学生の三者間で上手く情報の共有化がなされていないという問題が指摘された。しかし、討議を進めるにしたがい、それらは何かを達成するための手段であり、目的ではないということに気付いた。「社会が大学に求めているものは何か？」それを満たすことが大学の最大の目的ではないかという認識に立ち、討議の方向転換をはかった。

その結果、グローバル化に伴う競争の激化・低迷する日本経済・未曾有の災害等の厳しい社会情勢の中で、力強く自他のために貢献できる人材こそ、社会に求められており、次代の担い手を輩出する教育機関たる大学において、最も重要な社会的使命ではないかとの見解に至った。しかし、近年の学生は自分で自分の時間割を組めない、教職員に対する礼儀をわきまえない、特別に意見を主張することもない等、独立した人間というにはあまりにも頼りない。そこで、大学教学の中で、最も重要な点は学生の自立心を育てることではないかという結論に達し、「自立～社会で求められる人材輩出のために～」とテーマを設定した。

III. 討議内容

現状把握

1. 本テーマを達成するためには、現状把握が必要である。

① 近年の大学生の特徴に関して現状把握

最近の大学生として、見受けられる特徴・問題点等を、ブレインストーミング等を通して意見を出し合い、討議を行った。そして、具体的に以下の意見が出された。

- ・何事にも受け身で、モチベーションの低い学生
- ・質問力、コミュニケーション能力に乏しい学生
- ・自分で調べる事が出来ず、問題解決能力に乏しい学生
- ・親が過保護すぎる環境にあり、全ての手続きを親にやってもらう学生

② 職員の学生への接し方に関して現状把握

上記のような学生を生む原因として、職員の学生への接し方にも問題があるのではないかという意見が出され、討議を行った。そして、具体的に以下の意見が出された。

- ・安易に情報を学生に提供し、サービス過多になりすぎている
- ・業務の硬直化により、思考停止に陥っている
- ・学生との関係が希薄である
- ・学生、職員不参加型で、教員本意のカリキュラムが作られている

③ 近年の社会情勢に関して現状把握

近年の社会情勢、大学を取り巻く環境は変化している。特に、近年の就職難の状況では、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の3つの社会人基礎力を持ち、自立心を持った人材が当然求められている。その中でも、前に踏み出す力が、社会人基礎力の基盤となるだろう。また、近年の国際情勢、国際競争において勝ち抜く為にも、自分で考えて行動する、自立心のある人材が必要とされている。

これらの現状から、大学を取り巻く環境を考えると、大学を無難に卒業したとしても社会に貢献できるような人材は望めない。

IV.提案内容

現状を踏まえて、職員の学生への接し方を考える必要がある。

職員がどのように学生に対して接すれば、学生の自立支援に繋がるのかと考え、意見を出し合い、討議を行った。具体的に、以下の意見が出された。

職員から学生に対しての自立への導き

- ・ 解決への道筋を示し、達成した時にきちんと褒めて自信を与える
- ・ 学生が何に困っているのかを聞きだし、ヒントを与えるのみに留め、気づきを与える。最後は、学生自身で考えさせる
- ・ 職員から積極的にコミュニケーションを取り、その大切さを伝える
- ・ 保護者に対し、学生の自立がいかに大切であるかということを伝え、理解を求める

職員に対しての自立への導き

- ・ 学生は、顧客ではなく、学び手である。「与えることは自ら考える機会を奪うこと」ということを職員ひとりひとりが自覚する
- ・ 絶えず、アンテナを張り巡らす
- ・ 学生の声に耳を傾け、教員・職員・学生の三位一体となってカリキュラムを作成する
- ・ カリキュラム作成に PDCA を活用し、特に C（検証） A（行動）を心掛ける
- ・ 教員だけでなく、職員や学生も大学づくりに積極的に参加する
- ・ 職員ひとりひとりが、社会人としてお手本になるような立ち振る舞いをする

まとめ

「自立」というテーマで、討議を行い、学生の自立と謳ってきたが、それ以前に我々職員は、学生の鏡となっているのだろうか、という疑問から討議の次の段階へ進める事が出来たと感じている。その為、我々の考える自立には2つの意味が含まれている。1つ目は学生の自立、2つ目は職員の自立である。両者が、自立への導きの行動を起こす必要があり、その取組みが、学生・社会両面から求められる要求を満たす結果に繋げることができるという結論に至った。

つまり大学は、学生だけではなく教員や職員、三者間の学びの場であると、我々は考えている。

V. おわりに

大学職員情報化研究講習会参加を終え、異なる大学、異なる部署の大学職員の方々と長時間に渡って討議をしたことから、我々自身が多くの「気づき」を得られたと感じており、外部との交流の重要性を再認識することができた。

各々が大学に戻り日々の業務に追われる中、どこまで討議の内容を活かしていけるかは未知数ではあるが、大学職員としての意識の芽生え、その意識の向上の機会を得られたことは、非常に有意義だったと思う。

以上